

## 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2021/08/15 ～2021/10/04 )

### 1. 勉学の状況

Class Schedule for Fall 2021 - Chicago						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat

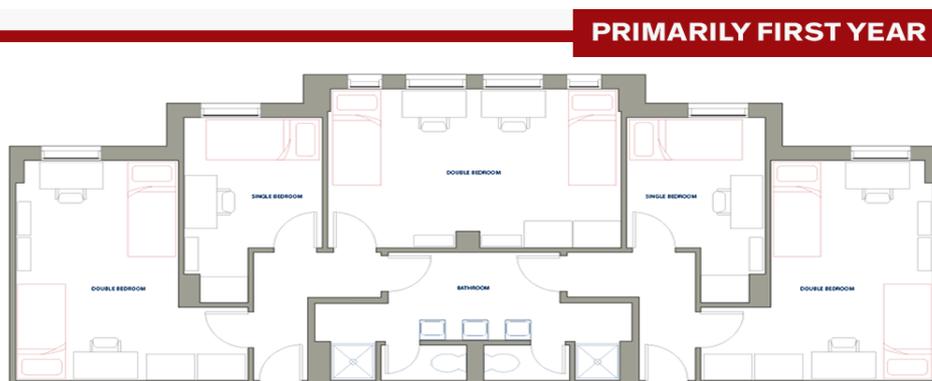
上記の画像が時間割になっている。科目数は四科目であり一見少ないように思えるが一つの授業が週に 2,3 コマあったりするのが日本での自身の時間割と違う点だ。さらにイリノイ大学では決められた時間割がないのも特徴かもしれない（1 時間目は 8:50～など）。どの授業でも教科書の指定されている箇所を予習するように言われている。最初のころは意気込んで読もうとしていたがとても間に合うものではなかった。そのため次第に授業ごとの予習に抑揚を入れることが大事であることに気付いた。

現在は経済学の授業 3 つと社会学の授業を 1 つ履修している。Environmental Economics, Government Economics, Intro Real Estate, Introduction to sociology である。初めの二つは数学ベースであるためそれほど苦勞していないが残りの二つは専門用語が多く予備知識が少ないためかなり大変である。社会学だけでも週に 40 ページほど読まなくてはならない。

対面授業では少人数のため生徒と生徒の距離が近いように感じる。そのため教授に質問するのもかなり容易である。

先述した通り数学ベースの授業は日本でしっかり学習している限り困ることはないと言える。正直言うと数学ベースの授業では千葉大学の方が難しい。つまりこれから理系科目で留学する人には千葉大学の授業をしっかり受けてさえいれば、授業についていけるか心配になる必要は全くない。異国の地での授業となると言語の壁など心配するかもしれないが、世界の大学だからと言って、経済学の範囲ではものすごく特別なことをしているわけではない。以上が勉学に対して率直に感じたものである。

## 2. 生活の状況



積極的に人と関わろうと上のようなタイプの寮に住むことになった。しかしルームメイトやクラスターメイトは比較的静かな方かもしれない。学食を食べに行ったりすることはたまにある。週末は留学生同士で遊ぶことが多い。多くの友達がメキシコ人であるためメキシコの独立記念日には盛大にお祝いした。



一つだけ後悔していることがある。やはり語学の壁は少なからず感じる。授業をこなしたり、留学生同士で会話したりする分にはあまり困ったことはないが、どうしてもネイティブと話すとき彼らのスピードや単語力に圧倒される。TOEFL のリスニングだけでなく日常会話のリスニングを勉強しておくべきだったと感じる。とはいえこれから留学生同士の文化交流イベントやハロウィンパーティーがあるので英語力を上げ、それらを楽しもうと思う。

海外派遣留学プログラム報告書  
(報告期間：2021/10/05 ～2022/01/08)

## 1 勉学の状況

前回の報告書から中間テストと期末テストがあった。初めての大きいテストとあって少し緊張したが、経済学のクラスではとりわけ苦勞しなかった。しかし社会学の授業の最終レポートは今までのどの課題よりも大変だった。学期が終わる一週間前にテスト週間というものがあつたその一週間で全てのテストを受けた。さらに詳しくテストについて説明すると、経済学のテストは基本的に千葉大学で受けたものとさほど変わらない。社会学の期末レポートは自分でテーマを設定してそれについての論文を10個以上読みそれらの文献が互いに補強しあつているのか相反しているのかを論じるというものだった。

また12月の下旬から1月上旬まで冬休みだったがその間に次の学期に取る授業を選択した。International Economics, Urban Economics, Econometrics, Asian American studiesを来学期には取る予定だ。つくづく実感するのがUICの教授は基本的に千葉大学の教授より厳しいと感じる。ほとんどの授業が対面であり、オンライン授業はかなり少数であり、あつたとしてもzoom等を使ってリアルタイムで授業していることが多い。オンデマンド型の授業やMoodle等にアップされた資料を学生が自主的に読むにとどまるタイプの授業は知っている限りない。UICではコロナ禍においても、平常時に近い授業が行われている。

## 2 生活の状況

10月には現地の友達の家でハロウィンパーティーをし、11月のサンクスギビングの日には友達の家で招待されてご飯をごちそうになった。下の写真がハロウィンパーティーのものである。



他にも交換留学生の友達がこの学期で最後になってしまうので、その友達ともよく遊んだ。



冬休みは寮の友達や現地の友達はみんな自分の家に帰ったので、クリスマスは寮でゆっくりと過ごしたが、大晦日は友達の家に行ってカウントダウンをした。

### 3 その他

生活面ではもう困ることはなくなり、快適な日々を過ごしている。シカゴ内では行きたいところはほとんど行ったと思う。円安が進行しているため、最近は外食がしづらい。

# 海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2022/01/09～2022/05/15)

## 1 勉学の状況

経済学の授業は前期と同様そんなに大変ではなく千葉大学の授業レベルに感謝している。しかし Asian American study のクラスでは毎週 30 ページほどの reading assignment が課される。授業までにそれを読み、それをもとにクラス内で議論することが求められる。詳しく流れとしては、

- ① 5,6 人の小グループになり課題に対して議論する。
- ②小グループの答えをクラス全体に発表する。
- ③クラス全体で小グループ内から出た意見に対して議論する。

というものになっている。まず予習をしていないと①の段階で会話に入れてもらえず、15 分間ボーっとしていることになる。幸いしっかり予習をしていたので会話に参加できないということはなかったがグループ内に会話に入れられない人はいた。最初は小グループ内でも意見するのをためらった。しかし少しは勇気がいるものの慣れれば①～③の過程でほとんど毎授業発言することができた。最後の授業はグループプレゼンテーションで少し緊張したがネイティブでも緊張しているのを見ると、少し安心した。実際ネイティブでも原稿を読み上げているだけの人も多かった。その点では原稿を読まなかった自分をほめたい。必要なのは英語力より根拠のない自信なのかもしれない。経済学はどの教科でも期末試験があるが千葉大学の方がはるかに難しい。いくつかの経済学のテストでは持ち込みが可能になっているのでその点でもそんなにテストは大変じゃないと言える。

## 2 生活の様子

4月の後半に TA などの院生がストライキを起こした。理由は彼らの賃金が低いことによってである。私の授業には影響しなかったが、いくつかのクラスはキャンセルになった。このように自分たちの権利のために行動し発言するのは「アメリカらしいな」と感じた。



さらに驚いたのは、教員もそのストライキに参加していたということだ。これがストライキの写真である。

他には友達が卒業するという事だったので、卒業式に参加した。UIC では学部ごとに卒業式をするが友達が所属している Liberal Arts and Science は一番大きい学部なので卒業式もかなり大きかった。



他には期末考査後にお世話になった友達と遊び最後の別れを惜しみながら遊んだ。シカゴの郊外に連れて行ってもらったが高級住宅街が多くキャンパスがあるダウンタウンとは全く違う雰囲気だった。シカゴで問題になっている所得間の格差から生じる地域差を目の当たりにした瞬間だった。あと個人的には NBA の試合にも行って来た。チケットは少しばかり高かったが、一生で何回も見られるわけではないので奮発してしまった。会場はたくさんのブーイングがあり、そこでもアメリカらしさを体感出来た気がする。



最後に帰国の際に起こったハプニングに少し触れたい。帰国の際にはコロナの陰性証明書が必要だったが、私の陰性証明書には医師のサインがなかったため飛行機に乗れず友達の家泊めてもらうことになった。外務省と航空会社の伝達がうまくいかなかったためこのようなことが起こった。チェックインカウンターやエミレーツ航空とのやり取りも貴重な経験だった。